令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【植竹小学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	(1)「なぜ」「どうして」と疑問をもち、根拠をもとに課題解決に取り組むことのできる資質・能力 (2)相手意識をもって自分の考えを伝えることのできる資質・能力
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	(1)学習活動において、児童が興味をもてるような発問を工夫したり、根拠を基にした予想や説明、自己の考えをまとめたりできるような授業を実施していく。【各単元の中で1回以上】 (2)相手を意識しながら自分の考えを整理し、より分かりやすく伝える協働的な学びの機会を各教科だけでなく朝の会・帰りの会などに設けていく。【各単元の中で1回以上】

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	国語科・算数科において、県の正答率を上回っており、知識・技能、思考・判断・表現力ともに概ね学力の定着がみられる。 国語科の「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」、算数科の「示されたデータから誤りのある項目を見つけ、根拠をデータの中の数と言葉を用いて記述する」ことに課題がみられた。 無回答率が県を上回るものもある。正答数分布結果から、県の平均を上回っている児童が多い一方、正答数の少ない児童も一定数おり、二極化傾向がみられる。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	国語科・算数科ともに、基礎的な知識や技能が定着している児童が多い。 提示されたデータや文中から、必要な情報を取捨選択し、与えられた条件のもとで分析・整理し、自分の言葉で表現することに苦手意識のある児童もいる。 自分の苦手な課題に対して、粘り強く取り組むことに苦手意識のある児童もいる。

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	中・高学年の交換授業や教科担任制の実施により、教員の専門性を活かした学習活動が展開されてきている。児童の考えをまとめたり、全体で共有したりする時間が十分に確保された学習活動になっている。 学習の定着度合に応じた児童への支援方法や授業形態など、学習活動の工夫をさらに進めていく必要がある。
	B	
⇓		
学力向上策の見直し	変更なし	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）